

群馬中小企業家同友会沼田支部 10月例会のご案内

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

10月の沼田支部例会は、みなかみ町の奥利根ゆけむり街道沿いにお店を構えるたかはし呉服店・高橋圭介氏が報告します。道の向かいは衣料品も取り扱う大手スーパー、好立地とは言い難い条件の中、地域衣料品店としてどう戦ってきたのか？また今後の行く末は？

ぜひ、この機会にお知り合いの経営者と一緒にご参加ください！

～ 記 ～

■日 時 10月23日(火) 18:30～21:00

■会 場 利根沼田文化会館 第1・2・3・会議室
TEL ; 0278-24-2935

■参加費 1,000円(食事代)

■報告テーマ 『衣・食・住、地域の“衣”』
～衣料の多様化は顧客ニーズの多様化か？～

[報告者] たかはし呉服店 高橋圭介 氏

〈会社概要〉創業/明治40年 従業員数/2名

事業内容 /和装・洋装、寝具、学生服、作業服、名入れ加工
ギフト、オリジナルTシャツ・キャップ製作

日本の経済成長に合わせ業態を変えていった呉服店。江戸時代後期、馴染み客への掛け売り販売から、一見さんに門戸を開くことで一般消費者の取り込み。明治期には、一部大型の店舗で、西欧で発達した「デパート」の販売手法を取り入れ、後の「百貨店」へ業態を変化。呉服店は、その時代で最先端の小売業という側面を持ち合わせていました。

しかし、それは都市部での話し。地域に根ざして営業を続けるには、日本人の着物離れ、都市部への人口流出、衣料品を扱う大型店舗の進出といった困難が立ちはだかります。日本の伝統文化(和装)を見直す動きもありますが、着付けが必要な着物の出番は減るばかり。今も地域で営業するたかはし呉服店は、どう乗り越え顧客を守ってきたのか？

* 下記の用紙を10月19日までに返信願います。 [FAX]027-232-0666

キ---リ---ト---リ---セ---ン

同友会・FAX返信連絡

(*いずれかに○印を)

10月23日開催の『沼田支部例会』に
出席 欠席

会社名・氏名